

第1節

救急

1 意識障害

意識障害とは、昏睡・人事不省を主症状とする病状である。西洋医学の急性伝染性および感染性疾患の過程で中毒反応が出現したときや、心臓および脳の虚血症候群・肺性脳症・肝性脳症・尿毒症・アシドーシス・熱中症・薬物および食物中毒などに現れる。

病因病機

心は神明を主り、脳は清竅のありかである。意識障害は、さまざまな原因が心・脳に影響を与え、それらの機能が失調することによって発生する。

- 外感した季節の邪気が鬱積して熱に変わり、胃腸に鬱結すると、腑実燥結となって、燥熱の気が上昇して神明を乱す。熱が心営に陥入したり、熱が営血を焼いたりすると、瘀と熱とが入り交じって清竅を塞ぐ。
- 飲食の不摂生から脾の運化機能が失調して、痰湿に塞がれたり、あるいは痰湿が鬱滞して熱に変わったりすると、痰湿あるいは痰熱が心竅を覆う。また脾の運化機能が失調すると、濁陰の邪が上昇して清空を犯し、意識がぼんやりする。あるいは湿熱に燻蒸されると、神明が乱される。
- 肝腎陰虚で水が木を潤すことができないと、肝陽が上亢して肝風を内動し、清竅を覆う。

以上の原因で、邪気が強くなると、陰陽が逆乱して神明が覆われ、閉証になることが多い。また正気が虚して気血が消耗し、陰陽が衰退して互いに支え合うことができなくなると、清竅が滋養を得られなくなり、意識障害に陥るが、これは脱証に属する。

また邪盛正虚で、内閉外脱のために意識障害に陥る場合もある。

弁証

昏睡・人事不省を主症状とする。

閉証

- 熱結胃腸：譫語・手足を動かして落ち着きがない・腹満・便秘・夕方の潮熱、舌苔黄燥か芒刺がある、脈実有力などの症状を伴う。
- 熱陷心営：手が焼けるように熱い・譫語・斑疹・衄血・ときどき痙攣する・角弓反張、舌質紅絳・舌苔黄少津、脈滑数か細数。
- 瘀熱交阻：狂ったように手足をばたつかせる・壮熱が出て夜に悪化する・少腹部全体の疼痛・唇や爪のチアノーゼ、舌質深絳色か暗紫色、脈沈実数などの症状を伴うことが多い。
- 痰湿壅阻：意識がぼんやりする・昏睡と覚醒を繰り返す・咳嗽・喘息・痰や涎が多い・身熱不揚、舌苔厚膩、脈濡か滑。
- 痰鬱化熱：痰が黄色く粘る、舌質紅・舌苔黄膩、脈滑数。
- 湿熱上蒸：譫語・昏迷してときどき覚醒する・黄痘がしだいに悪化する・斑疹・衄血・腹部が太鼓のように脹満する、舌質絳・舌苔膩、脈弦数などの症状を伴う。
- 肝風を原因とするもの：突然昏倒する・人事不省・半身不随・ときどきいびきをかく、舌質紅・舌苔黄少津、脈弦滑数。

脱証

- 亡陽：顔面蒼白・冷や汗が止まらない・いびき・呼吸が弱い・手をぶらんとさせる・遺尿・四肢厥冷、脈微細で途切れそうである。
- 亡陰：意識不明・煩躁・発熱・口の乾き・顔面紅潮・唇の乾燥・汗が熱い・四肢が温かい、舌質紅で乾燥している、脈細数無力。

処方・手技

【基本穴】水溝に瀉法。

覚醒するまで行針を続ける。

閉証：基本穴に湧泉・十二井穴を加えて瀉法を施す。

- 熱結胃腸：さらに大腸俞・天枢・上巨虚・内庭・支溝を加えて瀉法を施し、数分間行針を行い抜針する。また商陽・厲兌を加え、点刺して出血させる。
- 熱陷心営：さらに神門・膈俞・三間・曲池・尺沢・

外関を加えて瀉法を施し、太溪に補法を施し、諸穴に数分間行針をして抜針する。

- 瘀熱交阻**：さらに膈兪・神門・行間を加えて瀉法を施し、数分間行針をして抜針する。また厲兌を加え、点刺して出血させる。
- 痰湿壅阻**：さらに中脘・豊隆を加えて瀉法を施し、20分間置針し、間欠的に行針を行う。
- 痰鬱化熱**：諸穴に数分間行針をして抜針する。
- 湿熱上蒸**：さらに三焦兪・陰陵泉・内庭・俠溪を加えて瀉法を施し、数分間行針をして抜針する。
- 肝陽暴張**：さらに百会・風池・太衝を加えて瀉法を施し、三陰交に補法を施し、数分間行針をして抜針する。

脱証

- 亡陽**：基本穴に神闕・関元・氣海を加え、陽が回復して脱証が癒え病状が安定するまで、艾炷灸を施す。
- 亡陰**：基本穴に三陰交・太溪・復溜を加えて補法を施し、数分間行針をして抜針する。

処方解説

水溝は督脈に属し、督脈は各陽経を監督して脳に入るの、これを取穴すれば、神機をコントロールし、昏睡から蘇生させることができる。このため、水溝は救急治療および意識障害治療の要穴である。湧泉は足の少陰腎経の井穴であり、十二井穴は手足の三陰三陽経の起点と終点である四肢末端の腧穴であるが、各穴は陰陽経が交差するところでもあるので、陰陽を調節する機能がある。また瀉法を施せば、開竅醒神の効果が有り、すばやく抜針すれば清熱瀉火の作用がある。大腸兪・天枢・上巨虚は大腸の兪募穴および下合穴であり、いずれも腑熱を瀉し、大便を通じさせる。内庭は足の陽明胃経の滎穴であり、陽明経および胃腸の邪熱を清瀉する。支溝は手の少陽三焦経の腧穴であり、三焦の邪熱を清瀉して腑気を通じさせる。商陽は手の陽明大腸経の井穴であり、厲兌は足の陽明胃経の井穴であり、ともに胃腸の邪熱を清瀉する作用に優れている。しかも陽明経は多気多血の経であるので、両穴ともに気分と血分の邪熱を清瀉する作用がある。「心は血を主る」「営は血中の気となす」といわれるように、手の少陰心経の原穴である神門を取穴すれば、営分および血分の邪熱を清瀉するとともに、寧心安神をする。膈兪は血の会穴であり、営分および血

分の熱毒を清瀉するとともに、活血化瘀をして熱と血が結び付くのを防ぐ。熱が強くなれば陰を損傷するので、足の少陰経の原穴である太溪を取穴して陰を補う。葉天士が「営に入れば透熱転氣する」といっているように、手の陽明経の輸穴である三間と、合穴である曲池、手の太陰肺経の合穴である尺沢、手の少陽三焦経と陽維脈の交会穴である外関を取穴して清熱解毒をすれば、営分の邪熱が気分に入し、外へ排出される。肝は血を蔵するので、足の厥陰経の滎穴である行間を取穴すれば、やはり血分の熱を清瀉する。中脘は胃の募穴であり、豊隆は足の陽明経の絡穴であるが、両穴ともに和胃化痰降濁の要穴であり、すばやく抜針すれば清熱化痰をする。三焦兪は三焦の背兪穴であり、三焦の湿熱を清瀉する。陰陵泉は足の太陰経の合穴であり、醒脾利湿清熱をする。俠溪は足の少陽経の滎穴であり、肝胆の湿熱を清瀉する作用が特に強い。百会は足の厥陰経と督脈の交会穴であり、風池は足の少陽経の腧穴であり、太衝は足の厥陰経の原穴であるが、いずれも平肝熄風作用がある。三陰交は足の三陰の交会穴であり、肝腎および脾胃の陰を補う。神闕・関元・氣海は、回陽固脱をする。復溜にも、腎陰を補う効果がある。

治療効果

本処方の意識障害に対する治療効果はたいへん優れており、通常患者であれば、施術後数分から数10分以内に意識が戻る。

症例

患者：張〇〇，男児，3歳。

初診：1972年3月8日午前10時

所見：30分前に突然ひきつけを起こし、昏睡状態に陥った。熱は39.8℃あり、眼球が上を向き、角弓反張・牙関緊急・唇の乾燥・四肢厥冷・指紋のチアノーゼ・脈拍が速いなどの症状がみられる。

治療経過：上述の熱陷心営に対する処方を用いたところ、ひきつけがすぐに止まって覚醒し、30分後には熱もかなり下がった。毎日2回のペースで、原処方から水溝を除きさらに4回治療したところ、諸症状は消失し、治癒した。

注釈

①本病症はきわめて危険な症候であるので、針灸で